

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日 平成25年4月24日（水）

3 調査対象 第6学年

4 留意事項

- ・ 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- ・ 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないが、これを一つの資料として本校の傾向や課題を分析するとともに、指導改善のポイントを併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

【国語A】

領 域 等	平均正答率（％）		
	本校	宇都宮市	全国
話すこと・聞くこと	44.7	42.2	43.2
書くこと	45.7	53.2	53.0
読むこと	62.4	61.7	60.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.1	62.7	62.6

【国語B】

領 域 等	平均正答率（％）		
	本校	宇都宮市	全国
話すこと・聞くこと	66.7	66.1	64.8
書くこと	39.9	44.0	43.8
読むこと	44.1	49.5	47.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.6	64.9	63.8

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

〔本校の傾向〕

- ・国語A（知識）では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均とほぼ同程度であるが、「書くこと」は全国平均より低い。また、国語B（活用）でも、「書くこと」が全国平均より低く課題が見られる。

〔指導改善のポイント〕

【話すこと・聞くこと】

- ・目的や意図に応じ、自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成や表現の工夫を考えさせるとともに事実と感想、意見とを区別しながら説明したり報告したりする学習活動を計画的に行う。

【書くこと】

- ・目的や意図に応じて必要な内容を適切に引用して書くために、読み手に自分の考えが伝わるように引用した内容が対応しているかどうかを判断しながら書くことができるよう指導を工夫する。また、具体的な事実を引用して書く場合には、自分の意見との関係を考えながらテーマや見出し文に合わせて内容を選択すること、原文を正確に適切な量を引用することを指導する。

【読むこと】

- ・テーマ、課題に関連した選書の仕方や、相手によく伝わるような文章の構成、表現、書き方の工夫など、相手意識を明確にした書き方を指導するとともに、自他の思考を交流する言語活動を計画的に取り入れる。また、読書活動の充実を図る。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・読み仮名を正しく表記して発音させたり、点画の間違えやすい部分に注意して正確に書くよう指導したりして、漢字を繰り返し学習させる。
- ・習得した語句を文や文章の中で進んで適切に使うよう、日常生活の中でも確認させながら継続的に指導する。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

〔本校の状況〕

- ・国語に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高い。特に「国語の勉強は好き」と回答している割合は18.7ポイントも高い。
- ・「読書が好き」と回答している割合は全国平均と比べて7.1ポイント低く、読書については課題がある。

〔指導改善のポイント〕

- ・学校図書館司書と連携しながら、読書の習慣化を目指した学校図書館利用を促進する。
- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせを含めた朝の読書活動の充実や、親子ブックリレーなどによる「家読（うちどく）」の奨励など、読書に対する興味関心を高める工夫をする。

2 算数

【算数A】

領 域 等	平均正答率（％）		
	本校	宇都宮市	全国
数と計算	77.9	81.5	80.2
量と測定	69.1	68.1	68.3
図形	78.0	75.7	72.5
数量関係	82.4	84.2	83.4

【算数B】

領 域 等	平均正答率（％）		
	本校	宇都宮市	全国
数と計算	35.5	50.8	48.3
量と測定	53.2	56.6	56.0
図形	76.6	80.3	79.3
数量関係	52.0	56.2	54.9

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

〔本校の傾向〕

- ・算数A（知識）では「図形」は全国平均より高く、他はほぼ同程度である。算数B（活用）においては、特に「数と計算」が全国平均より低く課題がある。

〔指導改善のポイント〕

【数と計算】

- ・示された位までの概数を考える学習では、数直線に表して考える活動の充実を図り、示された位の一つ下の位の数に着目することについて理解を深められるようにする。

【量と測定】

- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解できるようにするために、数直線や面積図を用いて式と商の意味を考える活動の充実を図るとともに、板書において式に単位を添えて表すなど、指導を工夫する。

【数量関係】

- ・表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係であるかを考察し、数と言葉を用いて記述することができるようにするために、基準となる表の数値を設定し、それをもとにして、対応や変化の規則性を説明する活動の充実を図る。その際、比例の特徴について理解を深められるよう、指導を工夫する。

【その他】

- ・問題解決におけるノート指導の充実を図る。
- ・友だちの考えた式を読みとり、自分の考えと比較検討するなど、他者の表現を解釈する活動を取り入れる。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

〔本校の状況〕

- ・算数に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高い。特に「算数の勉強は好き」と回答している割合は16.8ポイント、「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法をかんがえる」と回答している割合は12.0ポイントも高い。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」と回答している割合は全国平均と比べて1.5ポイント低く、課題がある。

〔指導改善のポイント〕

- ・自分たちに身近で必要感を感じられる問題提示など、関心・意欲を高められ、進んで追究したくなるような課題提示を工夫し、進んで学習に取り組めるようにさせる。
- ・新たな学習場面に対して既習内容を生かして取り組めるような教材・学習環境を工夫したり、学習を通して身に付けたことを生活に生かしたりするような指導を意図的に入れる。